

委員長及び各委員 あいさつ

2018年7月、食品安全委員会の新たな体制がスタートしました。
山添委員、石井委員、村田委員が退任され、新しく川西委員、香西委員、吉田(充)委員が
加わりました。

食品安全委員会の これまでとこれから

さとう ひろし
委員長 佐藤 洋



2018年6月末で食品安全委員会設立から15年経過し、元服を迎えたと言えます。その間リスク管理機関からの諮問に対して、約2,550件の答申をし、「食品を加熱する時に生ずるアクリルアミド(自ら評価)」では、研究事業でばく露推計した上で評価を行いました。BMDやTTCなど新たな評価方法の導入も始まっています。これまで以上に適切な評価を進めるとともに、ITを使った情報発信や勉強会、講座などを通して、食品安全に関する理解の浸透や知識の普及を図っていきたくと考えています。

略歴

東北大学大学院医学研究科博士課程修了後、東北大学医学部助手等、独立行政法人国立環境研究所理事を経て、2012年7月食品安全委員会委員、2015年7月より食品安全委員会委員長。

食品の安全性向上に 役立つことを願って

やまもと しげき
委員長代理 山本 茂貴



食品安全委員会の設立準備段階から関わり、プリオン専門調査会の委員として設立当初からBSEのリスク評価に携わってきました。大学や研究所では、食品中の有害微生物の制御に関する研究や微生物学的リスク評価に役立つデータの収集、解析を行ってきました。食品安全委員会委員としてプリオンや微生物、かび毒などの評価を担当します。委員会での活動を通じて、食品の安全性の向上に貢献できることを願っています。

略歴

東京大学大学院農学系研究科獣医学専攻修士課程修了後、国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長、東海大学海洋学部教授を経て、2017年1月より食品安全委員会委員。

合理的でわかりやすい 食品のリスク評価を 目指して

かわにし とおる
委員 川西 徹



昨年度まで国立試験研究機関で医療製品の品質・安全性・有効性評価、及び食とくらしの安全のための試験研究に長年携わってまいりました。食品安全委員会では、担当する専門調査会(添加物、器具・容器包装、遺伝子組換え食品、新開発食品等)を中心にその審議内容や結論が広く関係者の皆様にとって合理的かつ分かりやすいものとなるように努めさせていただくとともに、新技術等を利用した食品のリスク評価手法を皆様方と議論しながら確立・導入し、リスク評価を精緻化するよう努めたいと考えております。

略歴

東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了後、国立衛生試験所(現国立医薬品食品衛生研究所)入所、薬理部、病理部、生物薬品部、薬品部、副所長、所長を経て、2018年7月より食品安全委員会委員。

食品のリスク評価の科学的な進化を目指して

よしだ みどり
委員 吉田 緑



第1期目の3年間では食品のリスク評価に仕事として携わりました。印象深かったのは、「加熱時に生じるアクリルアミド」の評価を通じて食品のリスク評価の在り方を広く国民の皆様にご紹介できたことです。一方で日本の食品のリスク評価は国際的水準に至っていない面もあります。これからの3年間は、国民の健康が第一であるという基本をさらに大切に、食品安全委員会の評価を国際的で科学的なリスク評価となるよう進化させ、広くその結果をご紹介していきたいと思ひます。

略歴

鳥取大学農学部獣医学科卒業後、北海道大学博士(獣医学)、国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター病理部第二室長を経て、2015年7月より食品安全委員会委員。

食品安全を消費者の視点から見つめて

かさい
委員 香西 みどり



食品をおいしい食物にすることが調理ですが、その前提に「安全」があります。これまで調理学の分野として主に「おいしさの評価」を目指してきましたが、今後は併せて「リスク評価」を消費者目線で考え、消費者に向けての有用な情報提供につながればと思ひます。調理に限らず生活者の視点に立つ家政学、生活科学の分野において「安全」は常に最優先にあり、そのための啓蒙活動、情報発信に貢献できるよう、分野の異なる他の先生方と協力して一層努力していきたいと思ひます。

略歴

お茶の水女子大学大学院家政学研究科修士課程修了後、お茶の水女子大学博士(学術)、お茶の水女子大学生活科学部助教授を経て、お茶の水女子大学基幹研究院教授。2018年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。

国民の皆様から信頼される機関を目指して

ほりくち いっこ
委員 堀口 逸子



私の担当は、リスクコミュニケーションに関することです。情報を包み隠さず、誤解・誤認されないように努め、また、情報をひもとくために必要な知識を届けていきます。食品健康影響評価(リスク評価)のプロセスと結果が記載されているいわゆる評価書は、専門用語が多く、自分自身も読み解くことに苦戦しています。情報を発信するだけでなく、皆様からの声に耳を傾けます。国民の皆様は、食品安全委員会そのものが認知され、そして信頼されるよう、努めていきます。

略歴

長崎大学大学院医学研究科博士課程修了後、長崎大学博士(医学)、順天堂大学医学部助手、長崎大学広報戦略本部准教授を経て、長崎大学客員教授。2015年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。

さらに広い視野から食品安全を見つめて

よしだ みつる
委員 吉田 充



農薬の作用や代謝、農産物や食品の成分に関する分析を専門とする研究者として30余年を過ごし、そのあと大学教員として、食品安全学等の授業の中で、化学分析に関する教育とともにリスクコミュニケーションに努めてきました。食品安全委員会では、汚染物質等専門調査会や農薬専門調査会で活動をしてまいりました。これからは、食の安全に関してさらに広い分野に目を向け、科学的視点からのリスク評価とリスクコミュニケーションに取り組み続けていきたいと思ひております。

略歴

東京大学大学院農学系研究科修士課程修了後、東京大学農学博士、(独)農研機構食品総合研究所食品分析研究領域長を経て、日本獣医生命科学大学応用生命科学部教授。2018年7月より食品安全委員会委員(非常勤)。

